

平成24年度 福島県社会教育研修会（伊達市）

対象は公民館職員や
社会教育関係者です。

と き：平成24年10月15日（月）

と ころ：伊達市月館中央公民館

テーマ：震災後の家庭や子どもとのかかわり方

1 講 話

「震災後の子どもの現状と今後の家庭教育支援の在り方について」

県北教育事務所 社会教育主事 佐藤亮治



始めに、震災後の子ども達のストレスの状況や心のケアの必要性について、新聞記事等の資料を使って説明がありました。次に、家庭の教育力の現状や課題について、また、これからの家庭教育支援の在り方について説明がありました。最後に、県の事業である「子どもをはぐくむ家庭・地域支援事業」についての紹介がありました。

2 説 明

「伊達市における家庭教育事業の現状」

伊達市教育委員会教育総務課 副主幹兼社会教育係長 佐藤 淳



始めに、伊達市における「平成23年度家庭教育支援事業実施状況一覧」について説明がありました。各幼稚園や小・中学校等で講座や講演会として実施されている実態がわかりました。次に、「平成23年度家庭教育支援事業についてのアンケート集計結果」から、子育てについての不安や悩み、放射能に関する保護者や子どもの様子等についての実態が報告されました。

3 グループ協議

「震災後の今、社会教育関係者が 家庭や子どもとどうかかわればいいのか」



第1班



第2班

最後に、2班に分かれて、グループ協議が行われました。協議では、

- 子ども達は放課後、テレビやゲームで過ごしていることが多い実態がある。
- 児童館、放課後子ども教室、学童保育、伊達市ちびっ子広場など、教育委員会や公民館の所管でなく、統一していく必要があるのではないか。
- 放射能の問題には地域格差があり、子どもたちの遊びにも格差が生じている。自然とのふれあいは必要である。
- 「家庭教育は自分の家はできるが他人の家はできない」と言われるが、それではいけない。地域ぐるみで行うことが大切である。

などの意見が出されました。